

環境の時代を考える

大阪府民環境会議理事・一級建築士事務所主宰 関井 弘之

忘れやすい魂のために、心に物干し台を 一日常性と環境問題の行方一

私の大好きなNHK朝ドラ「てるてる家族」が終わってしまいい、あの家族と一緒に生きてきた半年間が何だったのか…心の中にぽっかりと空洞が出来たみたいだ。(チョットオーバー)

あの家族にはあり、今の一般的家族にはない特別な場所、それが物干し台だ。記憶では一度も洗濯物が干してある場面を見たことがない。しかし、あの空間はドラマでは重要な役割を果たしていた。

夫婦がそれぞれの想いを吐露し、溜息をついたり、自分たちの歩んできた道を振り返り、慰めあったり、子供たちの行く末の幸せを願ったり、子供たちが将来の夢を語り合い、励ましあったり、一人で自分の気持ちを確認し決意を新たにしている。それはお茶の間やリビングでの日常会話では話にくい話である。そして、そこにはちょっとした非日常の空間がある。こんな空間を住宅の中に設定する事はそんな難しい事ではない。

ところが何時からか、こんな空間を我々はあまり必要としなくなり、あまりにも日常性のみの住宅が主流になってしまった。我々は、本当に日常茶飯の生活にのみに埋没してよいのだろうか？時には「祈りの空間」にこの身を投げ出し、ひたすら何かを祈り続けたい衝動に駆られる事がないのだろうか？内なる魂の声に耳を傾ける時間を本当に必要としないのだろうか？今の自分を見つめ「生きている事の不思議さ」を思う時間を必要としないのだろうか？本当に願わねばならぬ理想や物事の本来のあり方が何であるかに想いを馳せる事を必要としないのだろうか？

そして、「初心」も「高志」もまた忘れやすく「己の魂」のなんと忘れやすい事か。また、自分の置かれている環境をすべてアタリマエと考えて、感謝の念もなく、何も考えず、見ようとしめないのはなぜだろうか？

このようなことが環境問題のような日常生活とは一見関係なさそうに見える問題に想いを廻らす感性を喪失させているとしたら残念な事だ。

我々が生かされている日々の生活の中で水も空気も食べ物

もおいしくて当然と思い、生産性の高さのみを追求する人間社会と、どんなに汚しても浪費しても文句を言わないで黙って守ってくれる大自然。しかし、残念ながらその大自然の包容力にも限界が来てしまったようである。

ではなぜ、このような問題が起こってしまったのか、今の社会の底流にどんな発想が横たわっているか、考えてみたくなる。

それは一口で言えば機能主義的自然観ではないだろうか？産業革命以降、我々は使っている道具や機械と同じように大自然の多様な働きを無視して山や川を一つの役割、機能とし見なくなった結果であろう。

たとえば、本来、河川の働きは山林の腐葉土から沁み出した水が幾多の渓流や淀みをくぐり抜けミネラルたっぷりのおいしい水になり、山を下り海においしい植物プランクトンを生み出す。また、たくさんの落ち葉が出来る健康な山林は、大雨が降ってもゆっくり大地に浸透し川辺の植物を育て、少々人間の汚した水でも浄化してゆく。

しかし現代は単に洪水防止という理由だけで、河川改修と称してコンクリートの3面張りの直線コースの人工河川を造ってしまう。確かに洪水は怖いけど洪水の最大原因は森林の保水力の弱さであり、それは経済的に成り立たなくなった森林管理により森が荒廃したことが一番大きい原因ではないか？

このように単一機能としてのみ川をイメージし、おまけに自然をすべてワカッタツモリでいる事自身がすべてを表面的利用価値でしか捉えない現代人の機能至上主義そのものであり、さらに言えば、一つのものを持つ働きを深く色々な角度から見つめようとせず、自然への畏敬の念を無くしたところに大きな問題があるように思う。

我々は今、少しの余裕と愛の眼差しを持って深く全体的に物事を捉えるべき時期にさしかかっているように思う。そのためにも、日に一度心の物干し台で星空を眺めもの想うひとときが欲しいものである。

OSIES News 人と環境 No.3 (2004)

大阪信愛環境総合研究所(OSIES)発行(2004年4月)

大阪信愛女学院短期大学鶴見学舎内(〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見6-2-28)
TEL06-6180-1041,FAX06-6180-1045,E-mailosies@osaka-shinai.ac.jp

Web page:<http://www.osaka-shinai.ac.jp/college/osies/>

Contents

P1 環境を考える

P2 2003年度環境総研講座エコフェスタ

P3 現代社会と中世の出会い

P4 生駒いいもり山サポーターズ
環境総研講座の案内